

# 町政を問う。

## 5人の議員が一般質問

### 学校教育

#### Q 自然体験留学の課題

#### A 情報収集と情報発信で充実



狩野正雄議員

町にきている。町にとっても瓜幕地域においても、地域の活性化に大きな役割を果たし、定住された方は地域を支える原動力になっている。

この制度には瓜幕地域の皆さんの支援と協力が必要でした。留学制度の評価と今後の存続への課題は。

**(質問)** 昭和63年5人の中学生を受け入れてスタートした瓜幕地区の自然体験留学制度は、今年で25目になる。  
この制度がきっかけで多くの子ども達やその家族が里親、留学センター、親子留学などの形態で本

**(答弁)** 吉田町長 自然体験留学制度は当初5人の里親から始まり、平成23年度の現在まで

で延べ人数435人、実数にして214人である。留学生のほとんどが、地域になじみ、地域の子ども達と一緒にスケートをし、一輪車に乗り、馬とふれあい、地域の行事に参加することにより、第二の故郷として感じていただいている。この制度がきっかけで町内に定住された方は23世帯になり、本町の留学制度は全国的に高く評価されている。しかし、山村留学制度は全国的には廃止や減少の傾向にある。学校の統廃合や経済状況の冷え込みが教育にも大きく影響している。留学センターの維持経

**(質問)** 平成24年度の留学予定数と鹿追高校への進学者累計は。  
**(答弁)** 白井教育委員長 小学校10人、中学校6人、これまでの鹿追高校への進学者数は35人。



瓜幕自然体験留学センター 体験学習

### 地域活性化

#### Q 国策の活用を

#### A 国との協議に入る計画



武藤敦則議員

おこし協力隊」がある。都市部の人を過疎地域に3年移住させ地域課題の解決に活躍してもらう制度。わが町での活用は是非について町長に問う。



ビュアモルトクラブハウスでの交流事業

域経済の活性化や地域住民との交流によるコミュニティの再生など、様々な効果も期待される。本町が現在計画を進めている「子ども農村漁村交流プロジェクト」をはじめ、「観光振興」、「農業振興」等の分野での活用を視野に、新年度からの導入に向けて国からの協議に入る計画を進める。

**(質問)** 平成10年に建設されたピュアモルトクラブハウスは、農村と都市の人的交流に大きな役割を果たしている。このような取り組みを進め、定住される方が1人でも増える事を期待している。  
総務省の事業に「地域

**(答弁)** 吉田町長 国からの支援は、隊員1人あたり一年間350万円を上限に、最大3年間、特別交付税で措置される。意欲ある都市住民を、地域社会の新たな担い手として受け入れることによる定住人口の増加、地

費は1000万円程度で、事業の経費に充てるため独立行政法人青少年振興基金の助成金を活用するなど必要な情報の収集に努めるとともに、新たな情報発信にも努めたい。

**(質問)** 平成5年にセンターを改修して以降、必要に応じて修繕を行っている。現状では改修計画は持っていない。住宅の確保も、現在ある施設を利用してもらっている。不



瓜幕自然体験留学センター 体験学習

### 学校教育

#### Q 自然体験留学の今後

#### A 必要な対応を考える



台蔵征一議員

便はあるが、一応の需要に応じていると考える。山村留学についてのありべき姿について直接文部科学省に話もしている。

**(質問)** 地域の交流の場として、農業研修生の受け入れ

**(答弁)** 吉田町長 施設の必要の必要があれば、いろいろな手だてを考えたい。決して後ろ向きには考えていない。留学生が増える場合は必要な対応を考える。

れや山村留学の子ども達の宿泊施設として運営している交流センターのような施設を設置している地区もある。このような施設設置の考えは。



つぶやき

■寒い冬でした。日本海側は豪雪、たいへんな冬も終わりました。夏は静かで今年も“ひまわり”のかわいい花が見られるのがたのしみです！